

月刊 軽音楽部

発行：特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
配布：全国2,040校の高等学校軽音楽部

NPO 法人
全国学校軽音楽部協会



写真は軽音協プレミアムセミナー「第1回 ドラム塾」の様です

関東・中部・近畿北陸大会、中国BAND CHINAの入賞バンドが

この夏、舞鶴にやって来る!

第1回 高等学校軽音楽文化祭 国際大会

8.22 THU
10:00-12:30

会場 舞鶴市総合文化会館大ホール
京都府舞鶴市字浜2021

入場無料

出演 高等学校軽音楽コンテスト入賞校（関東大会、中部大会、近畿北陸大会）
オリジナルソング・グランプリ入賞校・国際音楽交流枠
震災復興特別枠として、石川県の高校軽音楽部、舞鶴市内の高校軽音楽部

芸術文化活動が教育現場で果たす役割 **山東昭子**

参議院議員 / 公益財団法人かけはし芸術文化振興財団 理事長

オリジナル曲づくりの目標の場として
軽音楽部支援活動の現在と今後の展望 **三谷佳之**

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

大学軽音楽連盟設立の趣旨と展望 **渡邊寛大**

埼玉大学教育学部 / 大学軽音楽連盟埼玉県支部 支部長



月刊 軽音楽部
バックナンバー



軽音楽部員必見
デジタル版記事

軽音楽部にもマネジメントの発想を... / ティーチング&コーチングとSL理論
アンサンブルが良くなる指導方法 / 軽音協イベント・カレンダー

2024
8
VOL.77

次号は8月25日発行



主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団
共催：舞鶴市

協力：舞鶴ミュージック Kommission
後援：舞鶴市教育委員会
京都府教育委員会

お問い合わせ
特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
TEL：045-913-0901 info@keionkyo.org



keionkyo.org

全国の中高大学の 軽音楽部を支援する協会

現在、全国の高等学校では軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部が学校教育の一環として、「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション（意思伝達）」「クリエイティビティ（創造力）」「チームワーク（協働）」「エンターテインメント（顧客満足）」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動であると認知されてきたからだと思います。私たちは、情報誌の発行、大会や合同演奏会の開催、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

Mission ～理念～

軽音楽部の諸活動を通して若い人材を育てる

Vision ～目標～

- 1 軽音楽部の学校内外における認知向上を図る
部活動としての歴史が浅い軽音楽部は、偏見もあり一般的に正しい認知が低いのが現状です。軽音楽を通じた部活動の有意義さを学校内外へ広めていきます
- 2 社会や地域貢献を視野に入れた部活動の提案
軽音楽部の活動範囲は、日々の練習や演奏会出演、大会への参加だけにとどまらず、地域や行政とのつながりを生みます。軽音楽部の活動を通じた社会貢献を応援します
- 3 生徒による自主、自律した部活動運営の支援
グローバルな視点からの上位下達ではなく自主的に動ける人間、これからの日本社会が必要とする自律した人間育成を目的とした部活動運営の支援をします

ご支援いただいている特別賛助会員の皆様（敬称略／順不同）

株式会社ミュージックネットワーク	名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	ギブソン・ブランス・ジャパン株式会社
一般社団法人サトヤマカイギ	フェンダーミュージック株式会社
大阪音楽大学	有限会社エムエージー
名古屋芸術大学	株式会社トップトラベルサービス
宝塚大学	株式会社福々家（モアリゾート、ホテル寺尾温泉）
日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校	株式会社サウンドハウス
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	音楽ロッヂ ゆうげん荘
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



■月刊 軽音楽部 VOL.77 ■創刊：平成25年12月18日（水）■新創刊：令和6年3月25日（月）■発行：令和6年7月27日（土）／第13巻8号通巻77号
■監修・発行／特定非営利活動法人（NPO法人）全国学校軽音楽部協会 JASLMC（Japan Association of School Light Music Club）
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-37-6-405 TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900 E-Mail：info@keionkyo.org
■企画・編集／株式会社ミュージックネットワーク

interview



学校教育の視座

芸術文化活動が教育現場で果たす役割……4

参議院議員
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団 理事長 山東昭子



部活動を考える

オリジナル曲づくりの目標の場として……6

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之

軽音楽部支援活動の現在と今後の展望……8

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之



継続する軽音楽活動

大学軽音楽連盟設立の趣旨と展望……12

埼玉大学 教育学部
大学軽音楽連盟 埼玉県支部 支部長 渡邊寛大

contents

軽音楽部にもマネジメントの発想を……②……………14
ティーチング&コーチングとSL理論①……………16
アンサンブルが良くなる指導方法⑤……………17
軽音協イベント・カレンダー……………20

音楽/エンタメ業界の仕事 2024

コンサートスタッフの仕事
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー……………22

From Chief-In-Editor

夏季軽音楽大会ツアー

本誌がお手元に届く頃、高等学校軽音楽コンテストの真っ最中で、京都府→愛知県→北陸地方→関東と飛び回っていると思います。世間からは大変ですねと言われるが、毎年のことだし、大変楽しく、若いエネルギーや刺激を受ける1ヵ月です。大会のステージの袖で緊張している高校生や審査結果に一喜一憂している高校生を間近で見るとは楽しいと同時に、実に身に引き締まる思いであり、そこから学ぶことは山のようにあります。日々は改善とはよく言ったもので、何度繰り返しても、必ずや課題は見つかるし、課題を見つけるし、それを解決することが進化や成長につながると考えています。

相変わらず、軽音協は新しいことに挑戦しておりますが、個々の事業やイベントを公的な場できちんと説明したことがないのではないかと反省しております。そこで、今月号ではいろいろな事業やイベントの開催の背景や目的などを説明させていただきました。私にすれば、根っこはすべて同じで、「軽音楽部の諸活動を通して青少年を育成する」という一言に尽きます。好きな音楽やバンド活動を通して、自分自身の能力の幅を広げ、高め、人間的に成長してくれることが我々の活動目的に繋がります。さらに、軽音楽が民間レベルでの国際友好につながれば、それほど嬉しい

ことはありません。「MANGA」に続き、「KEION」という日本語を世界に広げたいですね。

最後になりましたが、音楽やバンドのことだけではなく、釈迦に説法とは思いますが、生徒指導に役立つと考え、シチュエーションリーダーシップ論を踏まえた、ティーチング&コーチングの記事を掲載。執筆を担当していただいた専門家には、9月に講演会を依頼しております。顧問の先生はもちろん、部をまとめる立場にある部長やそれに匹敵する立場の生徒の皆さんの参加をお待ちしております。新しい部活動運営の在り方を考え直す機会になれば幸いです。

それではまた次号でお会いしましょう。

暑いですがお体を大切に……



三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

Email mitani@keionkyo.org
Facebook yoshiyuki.mitani
Instagram mitani.yoshiyuki
X (Twitter) @mitaniyoshiyuki

学校教育の視座

芸術文化活動が教育現場で果たす役割

さんとうあきこ
山東昭子

参議院議員
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団 理事長

山東昭子 (さんとうあきこ)

現参議院議員。11歳より芸能界入りし、女優・司会者として映画・テレビ・ラジオで活躍。32歳の最年少で初当選。参議院史上最長の8期を務める。科学技術庁長官、女性初の参議院副議長、史上初女性の派閥領袖(山東派会長)、第32代参議院議長を務める。

学業に加えて、部活動を通して、これからの社会を担っていく青少年を育てていく

各校で「学校教育の一環」と定義づけられている「部活動」で得られる経験や培った技能、費やした時間などが社会へ出た際にどのように活かせるのか、また、活かすことができるのか。今回は「高等学校軽音楽コンテスト関東大会・中部大会・近畿北陸大会」のダブル主催であり、電子技術を応用した芸術文化の振興と発展に寄与するために設立された、公益財団法人かけはし芸術文化振興財団の山東昭子理事長にお話を伺いました。

●関東大会は初回から欠かさずにお越しいただき、ありがとうございます。大会の様子をご覧になられて、軽音楽部やバンド活動に対する感想をお聞かせください。
山東…まず、とにかく学校という教育現場で「音楽」が根づいているというのが素晴らしいことだと思います。特に現代では、右脳と左脳を同じくらいに発達させなければいけない時代ですので、「勉強がすべて！」ということではなく、人間として音楽を愛し、それを通じて仲間が

できるというのは、かけがえのない経験ではないでしょうか。
少子化が進み、子どもたちが家庭の中で過ごす時間が減っているというか、ある意味では、「個」の時代ですね。でも、個性だけでは世の中を生きていくことはできないので、多くの中に溶け込むという意味で、軽音楽部での活動を通じて仲間ができて、自分の好きなことを広げていくことで、いろいろな人たちをどんどん巻き込んでいける、広がりを作ることができると思います。

また、高校や大学を卒業して、社会人になった途端に不安になったり、やりがいを感じなくなったりとしても、好きな音楽からパワーをもらうことができますし、元気になれると思います。そういったネガティブな部分を払拭する力も音楽にはあります。
どこの世界でも「コミュニケーション」がとても大切です。仕事は上司や部下、同僚や同業者をはじめ、取引先やお客様など、社内外の人たちと進めていくもの

です。営業職でも、技術職でも、研究職でも、いずれにせよ、いろいろな人たちと接していくことになりま。仕事だけでなく、プライベートでの付き合いも同じです。いろいろな性格や考えを持つ人たちと接していく中で、時には自分の考えを相手に合わせたり、お互いに良い方向へ変わっていく姿勢というのは、社会に出てからも必要な能力の1つです。
そういう意味で、学生時代から音楽や楽器の演奏に触れることができる軽音楽部での活動というのは、社会に出てからも大切な「コミュニケーション」や「チームワーク」といった能力を無理に押し付けられるのではなく、自分たちの好きなことで、知らず知らずのうちに様々なことを吸収し、学ぶことができる、素晴らしい部活動だと思います。

●近年、STEM教育に「芸術(ART)」が加わりました(STEAM教育)。音楽や芸術文化は「右脳」の分野であり、教育現場からも注目されていると思います。
さな子どもたちであっても、自分が体験した中での「答え」というのを持つているものです。そこを大切にしたいです。AIというのは、あくまでも参考であり、「強い味方」という形で側に置いておくのが良いと思います。

山東…音楽や文化芸術の果たす役割が教育現場からも注目を浴びているというのは、とても素晴らしいことですね。技術の面で話をすると、一昔前：特に地方は広大な土地があり、割と1軒ずつのお宅が広がったのですが、特に現代の関東地方は住宅のサイズがコンパクトになり、子どもたちの自室も小さくなっています。そんな環境で楽器の練習をするのは騒音問題に発展しますが、そこは電子楽器の出番です。イヤフォンやヘッドフォンを使用することで音量問題が解決するなど、技術が進歩することで良い時代になりましたね。

●話題が大きく変わりますが、正確無比な「AI(人工知能)」がどんどん現代社会や日常生活に入ってくる、まるでSF映画のような時代がやってきました。我々は、どのように生きていくことになるのでしょうか。
山東…まずはAIに頼ることなく、自分の頭で考えて、答えを導き出すのが大切だと思います。その上で、「AIは、どう



いう判断をするのか？」という視点で利用し、取捨選択をするべきではないでしょうか。最初からAIに頼ってしまうのは自分の考える力が養われませんし、退化にもつながります。私は将棋を通じて、

子どもたちの「考える力」を育てていく取り組みも行なっているのですが、将棋と同じで、AIも人類が生み出したものです。哺乳類の中でも人類だけが持っている「考える力」というもの：これは小

さな子どもたちであっても、自分が体験した中での「答え」というのを持つているものです。そこを大切にしたいです。AIというのは、あくまでも参考であり、「強い味方」という形で側に置いておくのが良いと思います。

●AIは経験したことの蓄積は得意ですが、未来はわからない。もしくは、過去から類推した未来しかわからないので、突拍子もないことは考えられません。一方で、人間であれば、突拍子もないことが考えられますよね。「アイスクリームの天ぷら」なんて考えるのは人間だけです(笑)。
山東…私は「食」に関する支援活動も行なっているのですが、子どもたちが学校で食の何をいろいろと考えて、地元のレストランや飲食店にプレゼンテーションを行い、それが実際に商品化される：というのがあり得る時代になりました。それと同じで、軽音楽部に所属する高校生たちも作曲をしたり、作詞をしてみたり、既存の曲をアレンジしたりする能力があるわけですから、どんな形でも良いので、「自分で創り出してみる」という能力は、とても必要だと思います。

学校の勉強は「1+1=2」しかないのですが、世の中には「1+1=3」のところがあったりします。ビジネスライクであるアメリカでさえ、外部からやってきたすごい発想力のある人が社内向けにいろいろなアドバイスをし、「その提案を進めてみようか」とか、「あのアイデアを取り入れてみよう」という事例があ

るようです。今の時代は、総じて「新しい想像力」や「新しい発想力」が欠けており、それらを培うことが後回しになっています。そこを「音楽」というフォーマットを媒介にして、自分の発想で、自分の感覚：しかも、若い人たちの感覚で、自然を見たり、いろいろな作品に触れることでメロディが生まれて、歌詞が出来上がって：というものは、とても素晴らしいことだと思います。若くて、新しく、自然な感覚(センス)から生まれる発想力というものは、すごい力があると思うので、ぜひ軽音楽部での活動を通じて、それらを養って欲しいと思いますし、顧問の先生方も、子どもたちの能力を引き出すためにご指導いただきたいですね。

●最後に、生徒たちをまとめる顧問の先生方にエールをお願いします。
山東…教員になることを目指してきた方々は、ずっと勉強を積んでこられたと思うのですが、いざ教育現場に足を踏み入れてみると、当たりの強い保護者がいたり、ウマの合わない同僚もいるなど、教師としての指導力に困惑してしまったり、不安を抱くことがあると聞いています。ですが、教師というのは、自分が子どもたちを教育して、これからの社会を担っていく青少年を育てていくんだ！輩出していくんだ！という思いで教師になられたわけですから、自信を持って、突き進んでいただきたいと思っています。先生方の応援として、私からもエールを送ります。

インタビュー：三谷佳之

部活動を考える

オリジナル曲づくりの目標の場として

三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

当協会では、練習の成果を発揮する場として「高等学校軽音楽コンテスト関東大会・中部大会・近畿北陸大会」を春と夏に開催していますが、この度、オリジナル曲を広く募集し、専門家による講評やアドバイスが得られる「全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ」を昨年末に開催し、広くオリジナル曲を募集しました。

オリジナル曲の制作に励むキッカケに

高等学校の軽音楽系部活動において「オリジナル曲」を作ることは、多岐にわたる活動の中でも、醍醐味の1つと言っても過言ではありません。多感な青春時代に「無から有を生むこと」は、かけがえない経験であり、部活動の思い出の1つになります。もちろん既存の楽曲のコピーに取り組み、スキルを向上させ、時にはアレンジを加えてみることも大切であり、素晴らしい取り組みですが、オリジナル曲の制作には「創造性 (クリエイティビティ)」が重要です。

「0から1を生み出す」という工程には、既に出来上がっている楽曲をコピーし、練習に励むことよりも得られるものが多いのです。軽音楽部における「コンテスト (大会)」では、演奏したバンドに対して評価をしなければならず、それは「優秀」をつけたいことを意味します。参加する高校生が目標に向かって頑張るからこそ、これまでの練習の成果を存分に発揮できたかを審査し、評価するのは大切なことですが、スポーツとは異なり、音楽や芸術は絶対的な点数や評価をつけることができません。その点を踏まえ、当協会では大会当日の「アンサンブル」を主軸に審査をしています。しかし、アンサンブルの評価だけが「軽音楽の大会」のすべてではありません。

そこで、2023年秋に「オリジナル曲を募集し、評価する機会を作ろう」という構想のもと、「エントリー」した高校生、全員に講評やアドバイスを伝える」という特長も加え、「第1回全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ」を開催しました。

音楽部オリジナルソング・グランプリを開催し、楽曲を募集しました。しかし、単にコメントシートを送付したり、講評を伝えるだけでは味気ないので、野球やバレーボール、バスケットボールなど、スポーツの試合で言う「MVP」のような立て付けで、「バンド部門」「DTM部門」「弾き語り部門」に分け、それぞれの優秀賞 (曲) を選出しました。

ステージで演奏を披露し、当日のまとも具合を中心に審査する「コンテスト (大会)」の対をなすものとして「オリジナルソング・グランプリ」を始動させましたが、本来、音楽や芸術は1位や2位を決められないものであることから、「優れたものに与えられる賞」を指す「グランプリ」を大会名に付けました。

初回となる第1回は、専門学校東京ビジュアルアーツ (現・専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー) の音楽総合学科が全面協力。各部門の審査員が応募曲を視聴し、優秀賞を選出したほか、すべての応募曲に総評やアドバイスを伝えました。

専門家の講評やアドバイスを求められる

ここで、第1回全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリで「優秀賞」を獲得した3組へのコメントを紹介しましょう。審査は、専門学校東京ビジュアルアーツ / 音楽総合学科の先生方に行っていました。

■ 茂原北陵高等学校 / ジャストリポート

ロックなリフで、かつ良いですね！ サビの展開が良い意味で予想を裏切る綺麗なメロディで、とても良かったです。途中に入るコーラスや「合いの手」もGOODです。メンバーの多いバンドは楽器の数の面で、ボーカルを潰してしまうことが少なくありません。そこで、いかに「抜くか？」がポイントになります。反対に、メンバーが少ないバンドは音がスカスカになることを恐れずに、それを個性としてアレンジを考えると良いでしょう。

■ 名古屋市立緑高等学校 / 白石 颯
どの面においてもクリエイティが高く、とても楽しく聴けました。最後にサビらしいサビが出てきたのも良かったです。間奏の部分はリードシンセも音作りが出来ると全編を通して隙がなくなると思いますが、DAWは様々な楽器を使用するため、それぞれの絡み方に注意する必要があります。ハーモニーに関してはギターやキーボード、シンセなどの役割が大きいです。楽器によってコードのボイスングが異なるので、重ね方に気をつけましょう。

■ 愛知県立鶴城丘高等学校 / 有馬羽琉
個性的で、心地よく聴きやすい歌声とメロディが印象的でした。とても素敵なので、全体的に細かい音程を外さないように意識して練習してみてください。低い音程もしっかりと取れるようになると、歌の説得力が増すと思います。アコースティック・ギターの抑揚やダイナミクスを意識して練習してみてください。歌詞とメロディの混ざり合い方を意識しながら、1曲1曲と向き合い、自分の納得がいくまで仕上げたいと思います。

第2回大会を今秋に開催、楽曲を募集

第1回開催で好評をいただいたことから、今秋に「第2回 高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ (申込締切: 10月31日)」を開催する運びとなりました。日頃からオリジナル曲の制作に取り組み、活動しているバンドや学校さんをはじめ、これを機にオリジナル曲の制作に取り組みませたいと考えている先生方も、ぜひ本大会にご応募ください。

オリンピックへの出場と言われる「参加することに意義がある」ではありませんが、オリジナル曲を制作し、専門家から講評を得たり、アドバイスを受けられるところに意義があります。「私たちなん

で、まだまだだし、無理無理...！」というバンドもいると思いますが、最初の1歩を踏み出さなければ、2歩目がないとは言ってもなく、最初は全員が初心者です。そんなことは気にせずに、ぜひチャレンジしてみてください。繰り返しますが、本大会の特長は、どんな楽曲でも、1曲1曲に専門家がコメントや今後につながるアドバイスをするといい点です。また、前回は希望者に向けて、オンラインによる個別の講評会 (相談会) も行いました。オリジナルの作品を作って、応募することによって、良い点や惜しい点、今の自分に足りないところを見つけてもらえる機会ですので、奮ってご応募ください。募集要項等の詳細は、8月下旬の公開を予定しています。



茂原北陵高等学校 / ジャストリポート



愛知県立鶴城丘高等学校 / 有馬羽琉



名古屋市立緑高等学校 / 白石 颯

全国学校軽音楽部協会

オリジナル楽曲募集 応募締切 10/31

第2回 全国高等学校軽音楽部 オリジナルソング・グランプリ

部活動を考える

軽音楽部支援活動の 現在と今後の展望

三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会理事長

今を生きる若者たちは日本だけでなく、世界の未来を担う存在です。私たちは軽音楽部での活動を通して、若者の健全な育成を支援することで、将来的に彼らを担い手とする、より良い社会の実現を目指すことを目的に設立しました。私たちは全国の高等学校をはじめ、中学校や大学の軽音楽部の普及・発展を願い、活動しています。今回は、その一端をご紹介します。

青少年の人材育成への寄与

当協会では、高等学校を中心とした「部活動」としての軽音楽部の支援活動を行なっており、関東・中部・近畿北陸地方を対象にした「高等学校軽音楽コンテスト」の開催をはじめ、情報誌「月刊 軽音楽部」の発行、複数の高校を集めた「合同演奏会」や各種セミナーを定期的に開催しています。さらに、昨年度はオリジナル楽曲を広く募集し、応募のあったすべての楽曲に専門家からのアドバイスシートがもらえ、今後の

参考にする事ができる「全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ」の開催をはじめ、石川県白山市にある白峰地区で「合同演奏会+社会見学」を実施。地元の方々には演奏を楽しんでいただくなど、新しい取り組みもスタートしました。

これらのイベントや演奏会、講習会等の根底にあるのは、私たちは部活動としての軽音楽部を対象にしているため、演奏がうまいか、そうでないかではなく、「青少年を育成する」という観点です。ギターがうまく弾けたり、バンドのアンサンブルがまとまっている…といった要素の前に、これらの取り組みが、いかに青少年の人格形成や将来の社会の担い手である人材の育成につながるかを重視しています。そのため、大会や合同演奏会等を開催し、単に演奏を披露する場を作るだけではなく、上下左右に活動の幅を広げ、いかに高校生の人格形成や教養を深める一助になるか、世間一般の方々から現在の軽音楽部の様子を見ていただけるかを考え、取り組んでいます。

授業を広げていく取り組み

コンテストの開催を通じて、軽音楽部(バンド)の頂点を目指す場を作ることよりも、当協会では、様々な取り組みで軽音楽部の裾野を広げ、世間一般への認知拡大を目指す部分も大切にしています。例えば、小学生や中学生を対象にしたイベントの開催です。今夏に開催する「音学教室」では、音楽(ミュージック)に焦点を当ててではなく、「音(サウンド)」に注目しています。「音(サウンド)」に注目しています。「どうして音は聞こえるんだらう?」「マイク・フォンの構造は、どうなっているんだらう?」「スピーカーって何?」といった初歩の疑問を小学生にわかりやすいように伝えるなど、

こういった部分から音楽や楽器に興味を持ってもらうべく、今夏より始動します。これまでの「STEM教育」と呼ばれている教育観に「ART/芸術」が加わり、「STEAM教育」として注目されているなど、教育現場においても「芸術文化」を学ぶことが人格形成や教養を深めることにつながる…とされています。今夏の「音学教室」は夏休み期間中の実施になるため、小中学生の「自由研究」や「探究学習」の一環としての参加を期待しています。

初回の今回は、京都府の舞鶴市にご協力いただきました。市内の小中学校の生徒にチラシを配布したほか、地元の方々にもご参加いただけるように案内をするなど、軽音楽部員だけでなく、「音楽」に関心を寄せてくださる方々を集めた会にしたいと考え、準備を進めています。

音楽や芸術に国境はない

もう一つの新たな取り組みが「高等学校軽音楽文化祭 国際大会」の開催です。「音楽に国境はない」と言われますが、部活動として取り組む軽音楽部の演奏(音楽)を世界に広げていこう、というのが今回の国際大会です。歴史や文化の地である京都府の中でも「海の京都」と呼ばれている舞鶴市との共催で開催する運びとなりました。

また、単に演奏を披露し合うだけでなく、学校や部活動、地域、自国の話を紹介するプレゼンテーションの時間を設けています。他者・他校・他国の文化を学び、音楽を通じた異文化交流を図ることを目的としていることから、大会の名称を「高等学校軽音楽文化祭」としました。今回の開催実績をもとに中国をはじめ、世界各国に協力を要請し、アプローチしていきますので、第2回大会では、さらに各国からの参加があることに期待しています。



なぜ音は聞こえる?
音の速さ
マイクの仕組み
音と映像
音の3要素
音に触ろう
いろいろな効果音

小・中学生向けに音や電気、音響の仕組みを優しく解説します。保護者や一般の方の参加も大歓迎! この夏休みは眼に見えない音について学びましょう。

夏休み!自由研究/探究学習

音学教室

2024 8.21 WED 13:00-14:30

会場: 舞鶴市総合文化会館大ホール
解説: NPO 法人全国学校軽音楽部協会

入場無料

お問い合わせ 特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
TEL: 045-913-0901 info@keionkyo.org



NPO 法人 全国学校軽音楽部協会

関東・中部・近畿北陸大会、中国 BAND CHINA の入賞バンドが
この夏、舞鶴にやってくる!

第1回 高等学校軽音楽文化祭 国際大会

8.22 THU 10:00-12:30

会場: 舞鶴市総合文化会館大ホール

入場無料

主催: 特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
協賛: 全国学校軽音楽部協会 関係機関
共催: 舞鶴市

軽音楽部での諸活動を通じて、「ポータブルスキル」を磨くことができる



意思伝達 コミュニケーション
バンドはメンバー同士で様々なことを相談して活動していきます。自分の意見を伝える力、相手の意見を聞く力が育ちます

連帯意識/協働 チームワーク
バンドは共同作業です。少人数でやり遂げる連帯感やチームの一員としての責任感が身につく、達成感による成長があります

創意工夫/創造力 クリエイティビティ
軽音楽部ではオリジナル楽曲を創作したり、既存曲を自分たちの演奏にするため、自ら作り出す力が育ちます

顧客志向/顧客満足 エンターテインメント
軽音楽部の活動の多くはライブ演奏です。自分たちの演奏を聴衆に楽しんでもらうための総合的な表現力が身につきます

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



校外での演奏と地域交流

当協会では、軽音楽部の活動は学校の中だけでなく、「地域との関わり」という点も大切であると考えています。地元の方々に認知され、応援してもらうことが軽音楽部の活動の幅を広げ、世間のイメージを向上することにつながります。

具体的には、昨夏に一般社団法人サトヤマカイギが主催する「白山サトヤマカイギ奉納祭」にて、「第1回 高等学校軽音楽部合同演奏会」を開催。地元の方々や未来を担う青少年たちが「つながる」ということをキーワードに伝統や自然について学び、交流しました。会場は石川県白山市にある林西寺の本堂で、初回となる昨年は石川県と岐阜県の高等学校軽

音楽部（5校）に参加していただきました。2年目となる今夏は前回の内容を踏襲し、4日間の開催にパワーアップ。民俗資料館で地域のことを学んだり、林業体験でスギの木の伐採を見学したり、地元の方々との散策や藁縄づくり体験など、毎日様々なアクティビティを用意しています。4日目である最終日には、能や謡の講義を聞くこともできるなど、盛りだ

くさんな内容です。「サトヤマカイギ・白峰マップ」会場となる白峰のロケーションが一目でわかる地図は有志の大学生が作ってくれたほか、ポスターやチラシもカフェや商店をはじめ、人が集まる場所に設置してもらっています。また、参加者である高校生は、金沢駅から白峰まで観光バスで移動しますが、バスの車内では地元の方が白峰のことを紹介したり、方言教室を開催するなど、移動中も退屈しないようなネタを用意しています。



この合同演奏会は、単に演奏を披露して終わりではなく、地域の風習や文化について学び、地元の方々や触れ合い、コミュニケーションを深めることを目的としています。これらの機会が「最近の高校生（軽音楽部）は、こんな活動をしているのね」というアピールになり、世間の認知が広まっていくと考えています。事実、昨夏に白峰で「軽音楽部合同演奏会」を開催してから、多方面で地元の方々に協力いただけるようになりました。

当協会では、「部活動としての軽音楽部」という視点に根づいた活動を全国的に展開できるようにすれば、結果として「軽音楽部」全体のイメージが向上し、世間の評判を高めてくれることになると考えています。軽音楽部の活動が青少年の成長に寄与して、思わず応援したくなるような取り組みと言われるようになるには、校外に出て、軽音楽部の魅力をアピールし、様々な方々に知ってもらうことが大切です。

京都北部の高等学校軽音楽部

「高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会」の開催地である舞鶴市を中心とした軽音楽の取り組みも引き続き、行います。京都北部には、5市2町（舞鶴市、福知山市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、及び与謝野町）がありますが、これらの地域の高校生を集めた合同演奏会を開催。京都北部の高等学校では「軽音楽部」が設立されていないところが少なくないため、高校生を中心とした若者たちの「バンドで音を奏でてみたい」「オリジナル曲を作ってみたい」といった憧れや機運を高めたいと考えています。

こちらのポスターは、7月14日（日）に舞鶴赤れんがパーク2号棟で開催した「軽音合同演奏会」の開催告知です。地元の方に制作していただき、様々なところにポスターを掲示するなど、広く開催をPRしました。このように地元の有志の方々と一緒に取り組みを行い、京都北部の若者たちによる軽音楽シーンを盛り上げていこう！ということで進めています。なお、今回もこの合同演奏会で特に優秀だった学校（バンド）が7月31日（水）に舞鶴市総合文化会館で開催する「第8回高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会」の特別演奏枠に出演する権利を獲得し、今夏は日星高等学校の「文珠」と京都府立綾部高等学校の「リトルクラウン」が演奏を披露しました。

傘下に大学軽音楽連盟を設立

令和6年6月9日、全国学校軽音楽部協会の傘下に「大学軽音楽連盟」を設立しました。本連盟は各地に「支部」を設け、その運営は大学の軽音楽サークルに所属している学生に任せていきます。最初に発足したのが埼玉県支部で、埼玉大学の学生有志が運営してくれています。当面の活動は、大学の軽音楽サークル間の交流を広げるためのライブの開催です。「CampusRock」と命名し、出演バンドの募集から当日の運営までを大学生が行います。大学軽音楽連盟の設立に関する詳しいことは本誌P.8～P.9をご覧ください。

顧問の先生方への支援も行います

当協会の活動の根底にあるのは「若者の人材育成」です。「自主自律」という言葉のとおり、自分で考え、自分で行動する若者を育てる、または顧問の先生の指導を仰がなくても、生徒間で部活動が運営できることを目指しています。

そのためには「ティーチング」と「コーチング」を使い分ける必要があります。何も知らない1年生には直接的な「指導（ティーチング）」が必要ですが、2年生にもなる、直接的に教えるのではなく、「気づかせる（コーチング）」が大切になります。そこで、釈迦に説法ではありませんが、「ティーチングとコーチング」に関するセミナーを9月に開催します。ご興味のある先生方はぜひご参加ください。

7/14日 13:00~17:00
会場 舞鶴赤れんがパーク 2号棟
観覧無料
主催：特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
協力：赤れんが Jazz リポーターズ
後援：舞鶴市

NPO 法人全国学校軽音楽部協会
大学軽音楽連盟 発足
2024.6.9
大学生ライブ毎月開催
CampusRock

未常識セミナー
ティーチング&コーチングとSL理論
顧問の先生をはじめ、部をまとめる幹部生徒（部長や副部長など）もご参加いただけます。
9月16日（祝/月）13時～16時
会場：かけはし芸術文化振興財団（Artware hub）
新宿区西早稲田3-14-3 Angels Garden 1F
講師：大田栄司 NTTコミュニケーションズのヒューマンリソース部で人材育成業務に従事。専門は人材開発とキャリアデザイン。
参加費：一般/顧問 4,000円
大学生/専門学生 2,000円
高校生以下 1,000円
お申し込みはこちら

継続する軽音楽活動

中高大学の軽音楽部を支援する協会名の通り、高校から大学へ広がる支援とハブ機能

大学軽音楽連盟設立の趣旨と展望

渡邊寛大

埼玉大学教育学部
大学軽音楽連盟 埼玉県支部支部長

全国の中学・高校・大学の軽音楽部を支援する全国学校軽音楽部協会の大学専門部門として、今年6月9日（ロックの日）に「大学軽音楽連盟」が設立されました。そこで、大学進学後の軽音と高校軽音の繋がりや課題から、大学軽音楽連盟設立に至った背景と目的、これからの連盟の活動について三谷佳之理事長に伺いました。

大学軽音楽連盟設立にあたって

軽音協の大学生版となるような組織を設立し、大学生の軽音楽の発展を支援したいという構想があり、具体化し始めたのは4月頃でした。それから準備を進め、大学軽音楽連盟の設立を発表したのは二ヶ月後の6月9日、ロックの日でした。大学軽音楽連盟のコンセプトは「高校軽音の活動を大学においてもシームレスに行い、大学においても軽音協の恩恵を受けられるようにし、更なる日本の軽音楽の発展、活性化を目指す」ということです。このコンセプトが掲げられる背景

には、高校軽音で育った生徒が直面する、「高校軽音と進学後の大学軽音のギャップ」という問題があります。

高校時代に部活動として軽音で頑張っていた生徒の多くが、進学後の大学軽音サークルでの雰囲気に対して、温度差を感じてしまい、離れていってしまうという現実があります。実際、サークルは部活動ではないので、毎日のように学校で練習をしませんし、1年を通して目標に据えるようなコンテストや大会のようなものもありません。高校の軽音楽部と違って、目標となるものが具体的ではないのです。高校軽音が楽しかった生徒たちには、ペースメーカーとなるような活動があまりない大学の軽音サークルでは、高いモチベーションで活動することが難しいのかもしれない。

この問題を解消しようと大学軽音楽連盟は活動していきます。CampusRockというライブイベントで大学を横断的に、そして学生主体として実施していきます。このCampusRockを開催する佐藤 碧の2人に手伝ってもらいながら、3名で支部としての活動を行なっています。埼玉支部には、他都道府県で連盟支部を立ち上げる際のロールモデルとなるという、ファーストペンギンならではの課題があります。やったことがない、成功するのかわからない、こうした活動が他の大学の人が受け入れられるのかわからない、様々な不安を抱えながらも、「まずはやってみる／試してみる」ということを大切にしながら活動を行っています。

埼玉支部UNISON

大学軽音楽連盟の最初の支部として埼玉支部が設立しました。渡邊支部長のほか、埼玉大学4年の米島啓、埼玉大学2年の



▲大学軽音楽連盟 埼玉支部を支えるスタッフ。右より渡邊寛大支部長（埼玉大学教育学部）、米島 啓（埼玉大学教養学部）、佐藤 碧（埼玉大学教育学部）

支部のメンバーは全員埼玉大学生で、最初は埼玉大以外の埼玉県内の大学軽音サークルと面識はありませんでした。県内の各大学とのパイプを作るため、InstagramのDM機能を用いて連絡を取ってみたい、学内外でやっているライブを見に行ってみたりしながら、他大学との関係性の構築に時間を費やしました。連盟としてのルールや方針、よくある質問（FAQs）に対する回答など、そういったことを考えることも埼玉支部の活動です。「学生主体で連盟を、ひいては各支部を動かしていくためにはどんなことを考える必要があるのか？」ということについて日夜議論を重ねています。

そして一番大きな任務はCampusRocksaitamaの運営です。8月11日に第一回を行う、まだまだ認知度の低いライブイベントなので、自分の大学や、外の知らない大学にアピールしてコンセプトをしっかりと伝えることがまずは必要でした。他大学との繋がりをいち早く構築する必要があったのはこのためでした。CampusRockの内容やコンセプトに

ことで見込める効果が大きく2点あると考えています。

1点目はストッパーとしての役割です。高校からの進学後、サークル内の設備や人間関係、音楽的嗜好、演奏技術など、自分にとって恵まれた環境で軽音活動をしていることが、すべての生徒にとって可能なわけではありません。中には高校の軽音楽部時代より演奏技術の低いサークルを目の当たりにし、軽音から離れていってしまう例もあります。CampusRockが大学を横断的に、さまざまな大学の軽音サークルからバンドを集め、ライブを行うことで、自分の大学ではない「外の世界」を知ることができそうです。他の大学にはこんな世界があることをこのライブイベントを通じて知ってもらえたら、進学後の軽音環境に恵まれなかった生徒にも、もう一度頑張ってみようと思ってもらえるきっかけになるのではないかと考えています。

2点目は人脈ネットワークの形成です。1点目で触れた内容と重なりませんが、CampusRockを通じて「外の世界」については、後述しますが、熱意や自分がこのイベントに対して抱いているワクワク感を相手に伝えるようなプレゼンテーションをすることが大切であると、肌で感じました。連盟として、これから様々な学生を巻き込んで、「なんかやばいイベントがあるらしい…」と噂になるような企画に発展させることがこのライブイベントの目標です。

CampusRock UNISON

大学軽音楽連盟の主な活動であるCampusRockは、学外を飛び出しライブハウスでライブをすることに重きを置いています。リハースルとサウンドチェックを当日の朝に行うことで、PAと綿密なやりとりができるのでしっかりとした演出ができるライブになります。普段の学内ライブと異なる緊張感のあるライブができます。終演後はアイスブレイクの時間も確保し、学生どうしの輪の広がりにも寄り、外の世界と関わっているという非日常感を提供します。8月11日の西川口HEARTSでの第一回目を皮切りに、第二回目を同じく西川口HEARTSで9月11日に、第三回目を10月20日に北浦和Ayersで行います。現在、埼玉大学、獨協大学、文教大学、西武文理大学、埼玉学園大学、城西大学など、県内のさまざまな大学に声をかけています。

このCampusRockはきつかけづくりの場となることを目指しています。軽音楽を通じたハブの役割を果たすことを目標に、大学生の交流や、ライブハウス



渡邊寛大
北海道出身。札幌光星高校卒業。埼玉大学教育学部4年。大学軽音楽連盟 埼玉県支部支部長。オリジナルソング研究会所属。大学ではコピーバンドを中心にオリジナルバンドを結成しライブを行う。好きなバンドはthe strokesとRed Hot Chili Peppers。

と学生を繋ぐ、その役割を担うことをコンセプトとしています。ライブを端緒として、新たな友が生まれたり、新たなバンドが組まれたり、ライブハウスに足を運ぶようになったり、将来社会人となった時にこの出会いが仕事で役に立ったり、高校生が見に来て進学する大学を決めるひとつのきっかけとして機能したり、このイベントはたくさんの人を繋ぐハブとして機能するイベントです。

この記事を読んでいただいて、顧問の方々の中には大学時代を軽音サークルで過ごされた方も少なくはないと思いますので、もしこのCampusRockを少しでも面白いと、興味を持っていただけたら、母校のサークルや学生、軽音楽部の卒業生にこの企画と活動を広めていただければ幸いです。

NPO法人全国学校軽音楽部協会 / 大学軽音楽連盟

CampusRock saitama

Vol.1 8/11 西川口 HEARTS
Vol.2 9/11 北浦和 Ayers
Vol.3 10/20

毎月ライブ開催 出演バンド募集中
contact : campusrock@keionkyo.org

軽音楽部にもマネージメントの発想を：②部へのエンゲージメント

軽音楽部という部活動は、現在最も人気のある部活動の一つです。しかし、その歴史はまだ浅く、運営や練習方法、機材や環境整備などのノウハウも少ないため、多くの顧問の先生方が悩まれています。抱えている問題は各校で違っていますが、部員、機材活動のマネージメントについてまとめていきたいと思えます。今回は、当事者である部員のマネージメント、部へのエンゲージメントについての考察です。

部活動の目的を踏まえた時に見える

高校生の集団を束ねていくことは大変ですが、部活動を通して様々な経験をしていく彼らにとって、部という居場所は学校生活の中で有意義なところであって欲しいと顧問の皆さんは日々格闘されていることと思えます。

軽音楽部は、音楽を通して他者とのコミュニケーションやバンドという小規模グループでのチームワークを様々な学ぶことができ、なおかつ自主性と創造性が育まれる部活動です。活動を続けていく中

は、自分と人を比べて勝手に落ち込んだり、人間関係に悩んだり、責任の重さにプレッシャーを感じたり、創作の苦しみやうまくいかない苦悩に苛まれることもあるでしょう。軽音楽部では、そんな10代の憂悶はバンドメンバーという特別な関係でつながった部員同士の絆や、ライブ本番などでの達成感、何かに向かって進んでいる充実感などでクリアすることが出来ます。もちろん、顧問をはじめとした教員の導きや学校の協力があつてこそですが、

本人たちの気持ちとは違うかもしれませんが、大人の立場からすれば、彼らの音楽的な成長やテクニックの向上といったことは二の次で構わず、充実した青春を過ごしながら、社会人としてのスキルを身につけてくれることが第一です。部活動というものの真の目的を踏まえた時に、部員への関わり方や接し方も見えてくるのではないのでしょうか。

自発的に、自主的に：：

学習指導要領において部活動は、教職

夫が必要なかもしれません。前回は述べましたが、軽音楽部はバンドがいくつか集まってできているのではなく、集まった部員がバンドに分かれていけるのだという前提に立ち返れば、様々な方向性が見えてきます。世界には解散後何十年も経って再結成……という例はいくつもあります。経験上イヤイヤ続けてメンバー同士の関係が修復された試みはありませぬ。バンド、音楽は気の合った者同士でやるから発展があるのです。様々な考え方がありますが、1

つのバンドに固執することなく柔軟にメンバーチェンジが行われても良いという意見も時代的に間違いではありません。仮に採め事が起きた時に備えて、できることが限定されないように複数の楽器やパートを普段から取り組ませておくという学校も多くなっています。しかし、それは人間関係のもつれに至ってしまった最悪の場合に限りません。音楽性（やりたい音楽）の違いやアレンジなどでの言い合いは、うまく手綱を引いてスムーズに着地点を見つけさせなければいけません。



員の指導の下という前提がついています。が、「生徒が自発的、自主的に活動するもの」とされています。それらの言葉には様々な意味合いが含まれています。高校生に当てはめてみれば、自分で考えて行動し、自ら能動的に物事に取り組んでいくこと、と要約できます。

近年では、「多様性」という大義名分のもと、日々の活動への参加や入部/退部もかつてのような縛りは薄くなっています。そんな現代では、最も大事なことが「部へのエンゲージメント（愛着や思い入れ）」です。簡単にいえば、毎日行きたくなるような部活動、行きたくなくならない部活動が理想ということ。どんなに入部時に意思の確認をして、部の方針に従うことを誓い、やる気のあ

る新入生を迎えても、途中で退部していく部員は出てきます。家庭の事情などが原因であれば仕方ないのですが、最も残念なのは人間関係のもつれです。しかし、それは自主自立（自律）の精神と裏腹で、チームで何かをする時には必ず起こる軌轢です。しかも、クリエイティブな

帰属意識の大切さ

部へのエンゲージメントは、帰属意識を高めることで増加します。自分がグループの一員であるとの自覚は、集団行動の中での振る舞い方を学ばせます。他者への迷惑を意識した思いやりのある言動、自分が担当していることへの責任感、共有機材や備品を大切に持つ気持ち、目上の人に対する敬意と後輩に対する配慮……など、部活動だからこそ学べることは多いと思えます。一方で、伝統の厳守、大会常勝へのプレッシャー、他校への過度なライバル心など、行きすぎた愛校心も生まれてしまうかもしれません。その辺りが顧問が行う部員のマネージメントの大きなポイントなのではないでしょうか。

また、学校の部活動であるという意識は、学外の行動にも反映されます。制服を着てギターを抱えていることの重大さを部員はしっかりと理解していなければいけません。一般の高校生バンドの帰属意識は、友人と組んでいるバンドそのものだけにちがいますが、もう少し視野を広く、帰属は部活動という団体や学校という機関にあり、ひいては社会という世界とつながっているのだと学ぶきっかけともなります。

部活動だからできる「リア充」を

部の存在や運営にある程度の形ができたら、日々の活動は生徒に任せてしまうことが理想です。それは、生徒の自立にもつながることですが、教員の働き

ことをしている軽音楽部では意見がぶつかることも当然です。対処としては、他者との信頼関係の築き方、言葉のチョイス、他者の意見や主張を受容することなど、思いやりや社会性の概念を事前に理解させておくことが求められます。学校が日々行なっていることともいえますが、火種を事前に察知する策が必要です。

例えば、SNSやDM（ダイレクトメッセージ）の使い方を十分にレクチャーしておく、活動ノートを定期的に提出させ問題の兆候を早期に見つける、全体ミーティングを定期的に行って孤独感をなくす、先輩が後輩バンドの練習を見回つてトラブルを未然に防ぐ、部内恋愛禁止など、予防策はいくつか考えられると思います。問題が起きてしまった時にはじっくりと当事者同士が話合える環境やシステムを整えておくことも重要です。

バンドの組ませ方にも工夫が必要

かつての日本社会の考え方は、一度始めたら最後までやり通す、壁にぶつかってもそれを乗り越えた先に成長がある……といった、「石に上にも三年」的なものでした。個人的にはそういった古い思想も完全否定はできない派ですが、現代は好きなことを伸ばす、無理に嫌なことを続ける必要はないという考え方が主流です。試合に勝つなどの明確な目標がない軽音楽部には、バンドの組ませ方にも工

方改革にも関係してきます。その状態を作り上げるまでが大変だとも思いますが、理想の部活動化に向けてチャレンジすることが部員をマネージメントしていく出発点ともいえます。

部員、バンド数が多い学校では、いつの間にかヒエラルキーが生まれます。上手なバンド、巧いプレイ、大会で入賞するバンドなど、部をリードするような部員が出てくれば、その陰で鬱屈としている部員も出てきます。手を差し伸べてあげるべきは、当然それらの勝手に落ち込んでやる気がなくなっている部員です。多くの場合、ヒエラルキーの意識は能力差ではなくセルフエスティームの充実感の差であることが大きいといわれています。すべての部員をいかに「リア充」にしてあげられるか……。部員のマネージメントとは、今風に言えばそんなところでしょうか。

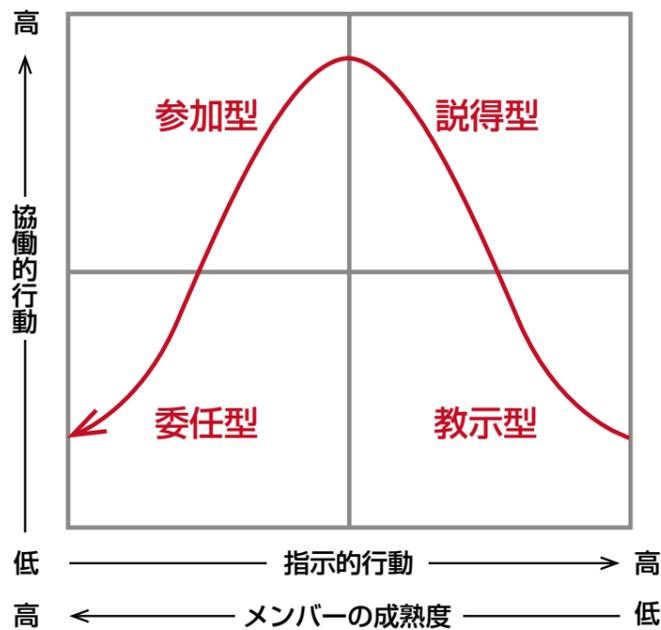
全国の学校では、前述のように複数の楽器やパートを経験させることで居場所を増やすという方法をとっているところもあります。一歩進めて、本番の機会ごとにメンバーを組み直すフリーバンド制にするのも部活動だからできる有効策です。また、機材係、記録係、会計係、スケジュール係、広報係といった部内の「係」をたくさん作って一任させることは、演奏以外で部に貢献できるきっかけ作りにもなります。任命権を部長や最上級生に与えたり、そういった取り組みを伝統として代々引き継いでいくことが、部の運営を生徒に任せていく道筋のひとつとなるでしょう。

文・辻 伸介

ティーチング&コーチングとSL理論 (第一回)

部活動での指導の際、いつも同じアプローチで生徒と関わっていませんか？生徒の成長度に合わせて柔軟な対応が必要ですが、自身の得意な型で対処しがちです。今月より3回にわたり、ティーチングとコーチングをテーマに、指導法について考えます。

リーダーシップ論の1つであるハーシー&ブランチャードの「Situational Leadership Theory (SL理論)」です。SL理論では、対象者の「成熟度」に従って、次の4つのリーダーシップのスタイルを適用するのが望ましいとされています(図)。



最初に、ティーチングとコーチングの違いについておさらいしておきましょう。ティーチングとは、親・先生などの立場の者が、知識・経験・スキル等に基づき、対象者に具体的な指示や手本を示して目標達成に導く手法のことです。一方、コーチングとは、対象者が自ら考えて解決策等を見つげるためのサポートを行う手法のことです。一般的に、部活動の内容に精通した先生の指導はティーチングが多くなりがちで、部活動の内容に詳しくない先生の指導はティーチングが少なくなりがちです。

ティーチングとコーチングの違い

では、ティーチングとコーチングの2つをどのように使い分けるのが良いのでしょうか。その基準として参考になるのが、リ

- ① **教示型 (指示型)**…対象者のスキルが低い段階で適用されます。ここでは、指導者が具体的な指示と手本を示しながら、基本的なスキルを教えます。例えば、新入生が部活動に参加したばかりの段階では、基本的な技術やルールをしっかりと教えます(ティーチング多、コーチング少)。
- ② **説得型**…対象者のスキルが少し向上した段階で適用されます。ここでは、指導者が指示を出しつつ、対象者に考えさせるように促します。例えば、基本技術を習得しつつある生徒には、具体的な指示を与えながらも、どのように状況を認識しているか、どのようにするのが良いと思うか等について意見を求めたりします(ティーチング多、コーチング多)。
- ③ **参加型**…対象者のスキルがある程度

高くなった段階で適用されます。ここでは、指導者は対象者の意見を尊重し、共に課題を解決するアプローチを取ります。例えば、一定レベルの技術を習得した生徒には、ある課題に対して一緒に解決する方法を検討する機会を与えます(ティーチング少、コーチング多)。

④ **委任型**…対象者のスキルが高くなった段階で適用されます。ここでは、指導者は生徒に多くの自由と責任を与え、自主的な行動を促します。例えば、上級生や経験豊富な部員には、自分たちで練習メニューを考えさせたり、後輩の指導を任せたりします(ティーチング少、コーチング少)。

生徒をしっかりと見ていますか？

SL理論で注意しないといけないことは、ある事象の成熟度で④が適用されるレベルの生徒が、ほかの事象の成熟度でも④が適用されるレベルとは限らないということです。例えば、ある生徒の部長としての成熟度は④だとしても、特定の楽器の演奏者としての成熟度は②であるようなことは一般的に起こりうるでしょう。そのため、リーダーシップのスタイルは、生徒ごとに固定するものではなく、事象ごとに選択する必要があります。つまり、先生が、事象ごとに適切な対応をするためには、各生徒のいろいろな事柄に対する成熟度を日頃からしっかりと見ておく必要がある、とも言えます。以上のように、第1回では、リーダーシップのスタイルを変えることが重要であることをお伝えしました。この内容を基に、第2回では部活動の内容に詳しくない先生の指導について、第3回では部活動の内容に精通した先生の指導について、それぞれ考えてみたいと思います。

文…大田栄司

軽音楽部の指導に困っている顧問必見！誰でもできるバンド指導のポイント！

アンサンブルが良くなる指導方法

⑤ 演奏の完成度を高める

全6回に渡って、バンドアンサンブル指導のヒントを解説していきます。今回は、バンド練習を重ねて演奏が整ってきた段階で、もう一段クオリティを上げるためのヒントについてです。なるべく専門的ではない部分の絞っていきたいと思いますので、日々の指導の参考にしてください。

1 バッキングに余裕が出るまで

キメやシンクペーション、ユニゾンなど、集中して合わせなければいけない部分の練習はしても、流れに任せてあまり細かいことを気にせずに演奏してしまっている部分がないでしょうか。

楽器陣は、基本的にボーカルが入っている部分では主に歌の邪魔にならないようにコード進行に合わせて同じリズムパターンを続ける「バッキング」をしています。比較的難しいフレーズが多いので、あまり練習に励まない箇所ともいえますが、楽曲の中で行っているのはほとんどがバッキングです。この部分の精度を上げることが、完成度の高いアンサンブルへの鍵となります。

2 入口・出口、1拍目

「最初が肝心」「終わり良ければすべて良し」といった諺があるように、各フレーズの最初と最後、セクシジョンの最初と最後、楽曲の出だしとエンディングの最後…などがうまく演奏できれば、アンサンブルの完成度は高く聞こえます。

3 最後はやっぱりボーカル

ボーカルはバンドの顔であり、楽曲のスポークスマンとしての役割があります。ボーカリストの歌の抑揚やニュアンスに合わせて伴奏の方向性も決定していくため、最終的にはやっぱりボーカルパートの熟成加減がバンド全体の完成度を高めることにつながります。良いアンサンブルへの目

とです。これらは個人練習の範疇ですが「お互いの音を聴く」余裕ができるまで繰り返し練習を重ねてからバンドでの合わせ練習に臨むことが理想です。多くの人は、音源に合わせて練習するだけで、メトロノームを使って練習していません。すると、テンポや構成もお互いを頼ってなんとか演奏してしまうため、アンサンブルは不安定になります。基礎練習でもフレーズ練習でも、個人練習では積極的にメトロノームを使いましょう。また、既存曲で難しいフレーズがある場合は、簡単にアレンジしたり「やらない」という選択も有効です。個人練習の先にバンド練習があるのでという大前提の理解が、演奏の完成度を高めるためのポイントです。

と歌い終わり、ギターソロやキーボードリフなどの弾き始めとクロージング、ドラムフィルの叩き初めと終わり方、ベースの経過音から次の小節への流れ…なども挙げられます。テクニク的には個人練習の意識の仕方でも大きく変わる部分ですが、合奏の中で「良い加減」になっていることが重要です。これはバンド練習中にしか判断できないことです。そして、最も重要なのが「1拍目」です。毎小節、各セクシジョンの1拍目を合わせ意識があるかないかでは大きく変わります。バスドラムをよく聴いてしっかりと合わせるように心がけること、ドラマーは1拍目のバスドラムを安定させることの意識が大切です。

ボーカルはバンドの顔であり、楽曲のスポークスマンとしての役割があります。ボーカリストの歌の抑揚やニュアンスに合わせて伴奏の方向性も決定していくため、最終的にはやっぱりボーカルパートの熟成加減がバンド全体の完成度を高めることにつながります。良いアンサンブルへの目



標は、いかにボーカルを良く聴かせられるかなので、当のボーカリストの歌唱、楽曲への深い理解はとても重要です。コピー曲の場合でもオリジナル曲の場合でも、キーをボーカリストに合わせることも大事な要素です。全体を移調する方法もありますが、声を張って歌うサビよりも音程が低いことが多いAメロをしっかりと歌詞が伝わるように歌うことで、他のセクシジョンも生きていきます。

軽音楽部では楽器を演奏しながら歌うケースも多く、負担がボーカリストに偏ってしまいうこともあります。楽器演奏を軽減したり、ボーカルパートを分け合うなどのアレンジも作戦の1つです。

文・辻 伸介

楽器本体から弦などの消耗品、譜面台、PA機器、各種ケーブル類まで8万点以上を取扱い中

軽音楽部を応援する サウンドハウス



サウンドハウスがプロデュースする音響機器ブランド。
驚異的な価格を実現し、真摯に「機能」「操作性」「音」を
追求した商品をラインナップ。



▶ 楽器本体から定番アクセサリまで在庫豊富でお買い得! ◀

※2,000円以上の注文にて
送料無料*
最短即日発送
長期3年保証

エレキギター弦 ~セット弦は送料無料~ ギター・ベース弦1,000種類以上を取り扱い

D'Addario EXL Series ¥900~ ニッケルワウンドを採用したブライツなサウンド	ERNE BALL Slinky Series ¥820~ 世界定番、クセがなくバランスの良いサウンド	TITE-FIT DR ¥1,080~ クラシックな設計による太く掛けが良いトーンとサステイン
La Bella HRS Series ¥1,580~ 最新技術により、チューニングしやすし柔軟性を確保	Elixir NANOWEB ¥2,200~ ナチュラルなタッチ、ブライツで迫力のあるサウンド	PIAUTECH EGS Series ¥280~ サウンドハウス・オリジナル。高いコストパフォーマンスを誇るエレキギター弦

アコースティックギター弦 ~セット弦は送料無料~

D'Addario EJ Series ¥1,280~ 楽器の鳴りとキャラクターを活かした明るく曲切れの良いサウンド	ERNE BALL Earthwood ¥850~ 明るく、輪郭が明確な音色と心地よいサステイン	PIAUTECH AGS Series ¥300~ サウンドハウス・オリジナル。ブライツなトーンのアコースティックギター弦
--	--	---

エレキベース弦 ~セット弦は送料無料~

D'Addario EXL Series ¥3,580~ 大定番ベース弦。オーソドックスなニッケルワウンド、ブライツなサウンド	ERNE BALL Slinky Series ¥2,580~ ハイからローエンドまでバランスのとれたサウンド	PIAUTECH EBS Series ¥850~ スタンダードなニッケル・ラウンドワウンドによるベース弦。サウンドハウス・オリジナル
---	---	---

ドラムスティック 1,000種類以上を取り扱い

PROMARK TXR5AW ¥1,980 REBOUND 5A ¥2,090 ACTIVEGRIP ACOBN	PIAUTECH PHS5A ¥680	VIC FIRTH 5A ¥1,680
--	-------------------------------------	-------------------------------------

ドラムヘッド/シンバル

EVANS REMO Zildjian SABIAN PAiste	PIAUTECH 高いコストパフォーマンスと豊富な種類が魅力。サウンドハウスのオリジナルブランド PLAYTECHシンバル
--	---

国内外メーカーの定番から新商品まで取り扱い中!

Fender, Gibson, Yamaha, Roland, Hartke, Ampeg, KORG, Zoom, Marshall, BOSS, SHURE, VOX, Ibanez, Pearl, TAMA, electro-harmonix

配布校リスト

全国の高等学校2,040校の軽音楽系活動の顧問あてに無料配布しています

現在の配布校リストはQRコードからご覧いただけます

次号予告

8月25日(日)発行

次号は

※表紙はサンプルです

Event Calender お問い合わせ: info@keionkyo.org TEL: 045-913-0901

軽音楽部セミナー

- 9月21日(土) 会場: 日本工学院専門学校/蒲田校
- 10月5日(土) 会場: 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー (オリジナル曲づくりセミナー)
- 11月2日(土) 会場: 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー (オリジナル曲アレンジセミナー)

軽音合同演奏会

- 11月9日(土) 10日(日) 会場: 昭和音楽大学
- 12月21日(土) 会場: 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー (オリジナル曲限定)

その他

- 8月22日(木) 第1回 高等学校軽音楽文化祭 国際大会 会場: 舞鶴市総合文化会館大ホール
- 8月30日(金) 高等学校軽音楽コンテスト関東大会 Special Live at Fender Flagship Tokyo
- 9月16日(月・祝) 未常識セミナー テーマ: ティーチング&コーチングとSL理論 会場: かけはし芸術文化振興財団 (Artware hub)

「定番」コード進行からオリジナル曲を作ろう!

よく使われている「定番」コード進行の代表例を紹介いたします。初めての人も、既に何曲か作っている人も、テンプレとして今後の曲作りの参考にしてください!

ギター、ベースの音作り 音楽のための「音学」

バンド演奏をするのであれば避けては通れない音作りについて、「知っておきたい基礎」「知っておくべき基礎」を学びましょう!

右のQRコードから記事を読むことができます

軽音楽部とはどんな部活動なのか、毎日の練習はどんなことをするのか、軽音楽部に入るとどんなものが必要になるのか...など、新入部員必見の定番記事をデジタル版としてアップデートしました。QRコードにアクセスしてお読みください。

今月の新着コンテンツ

絶賛販売中 **未常識**

ファーストペンギンは鶏口牛後を心に誓う 三谷佳之 著

未常識とは未だ常識になっていないこと。世間の常識になる前は常識はずれなこととして見過ごされるが、視点や考え方を変えると前代未聞、前人未到、空前絶後の道が開ける。考え方を考える100選。

価格: 1,500円(税別) Amazon Kindle版 未常識

絶賛販売中 **成功と失敗**

考え方の分岐点 三谷佳之 著

成功と失敗。いろいろな岐路に立った際、どの考え方を決めるかで結果は大きく別れます。成功と失敗を分けるほんの少しの考え方の違いを対比で紹介する珠玉の100選。

価格: 1,500円(税別) Amazon Kindle版 成功と失敗

株式会社ミュージックネットワーク 未常識プロジェクト (自己啓発事業部)

エンタメ&クリエイティブの専門学校



VISUAL ARTS

東京 / 名古屋 / 大阪 / 福岡

ビジュアルアーツ・アカデミー

ACADEMY

Akademeia 21st Century



- ミュージシャン
- 声優・俳優・タレント
- ダンス・ダンスボーカル
- ネットタレント・インフルエンサー
- 映像クリエイター (3DCG・VFX)
- テレビ放送・映画スタッフ
- コンサート・舞台スタッフ
- レコーディングエンジニア
- サウンドクリエイター
- 映像音響 (MAエンジニア)
- 写真・デザイン
- マスコミ出版
- 芸能マネージャー
- 特殊メイク

※地区によって教育分野が異なります

大学も専門学校も超える新たな学びの場



ー コン서트スタッフの仕事全般について教えてください

小島: コン서트スタッフの仕事は多岐にわたるのですが、「音響」や「照明」が一番わかりやすいところかな…と思います。他にも、LEDの大きなスクリーンを使用した「映像」の仕事や、それを撮影する「カメラ (撮影)」をはじめ、そもそもコンサート全体を統括する「制作」と呼ばれる仕事や、それらを「企画」するセクションもあります。コンサートを演出する部分では、レーザーをはじめとする電飾や特殊効果 (特効) など、あまり知られていない部分の仕事も挙げると、「こんな仕事もあるんだ!」という発見が多いのではないかと思います。

例えば、「音響 (PA)」を挙げてみても、ステージ上の音 (演者向け) を管轄するモニターマン (モニター PA) がいたり、客席にいるお客さんへ音を届けるメインとなる音響の仕事もあります。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか。高校時代にやっておいた方がよいことも教えてください

小島: コン서트スタッフにまつわる知識や技能といった専門的な部分は、大学や専門学校に入学してから学んだり、会社に就職してから学ぶのがほとんどであるため、高校生のうちに必要な知識や経験というのは、特に必要ありません。とはいえ、エンターテインメント (以下、エンタメ) の世界なので、高校生のうちから様々なエンタメに触れておくのと良いと思います。

具体的には、自分のできる範囲で構わないので、好きなアーティストのコンサートに行ってみたり、ライブ映像を視聴したり、あるいは小さなイベントでも良いので、近くのショッピングセンターなどでやっているイベントを覗いて

みたり、ライブハウスに足を運んでみるなど、いろいろなものを見たり、聞いたり、感じたりできると、自分の強み (好きなこと) や引き出しが増えていくので、おすすめです。何よりも「(自分の) 好き!」という気持ちの再確認になりますし、「好き」という気持ちを極めていければ、何事も頑張れるはずですよ。

ー コン서트スタッフの楽しいところや、やりがいを感じる瞬間を教えてください

小島: 「拍手」が一番嬉しいですし、やりがいを感じる瞬間です。お客さんが送る拍手は、もちろんステージにいるアーティストだったり、演者に向けたものですが、我々コンサートスタッフも、その瞬間を作り出すために仕事をしているわけなので、拍手をいただけるとやりがいを感じますし、舞台上でガッツポーズをすることもありません (笑)。「お客さんが嬉しそう顔をして、キラキラしているのを作り出しているのは、我々なんだぞ!」という自負を持ちながら仕事にあたっていますし、会場が大きくなればなるほど、感動を一度に届けられる人数が増えるので、自然とやりがいも大きくなります。一方で、小さい会場の場合もお客さんのリアクションがダイレクトに返ってくるのが楽しいですし、この仕事をしていて良かった…と思える瞬間が多々あります。

ー コン서트スタッフの仕事の大変なところを教えてください

小島: コンサートは華やかなのですが、キラキラとした華やかな部分は一瞬で、その前に長い準備期間があります。コンサートを作るために細かい打ち合わせをし、調整を繰り返しながら、いろいろな人たちと連携していくのですが、時には意見が対立したり、うまくいかないこともあります。その期間が長いのですが、楽しい瞬間

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はコンサートスタッフの仕事について、専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミーの小島光佑先生に伺いました。

間は一瞬で… (笑)。踏ん張っている期間が長いと、その分、跳ね返りも大きいわけですが、本番に向けた諸準備を進めていくのが少し大変に感じる部分かもしれません。

ー コン서트スタッフの仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか?

小島: 1つ目は、先ほどの項目と重複しますが、「人に楽しんでもらうことが好きな人」です。スタッフの心構えとしてホスピタリティの気持ちが大事で、細かいことに気を遣えるようなおもてなしの心をお客さんや出演者などに持ち続けることが大切だと思います。

2つ目は、本番に向けた準備期間が長いので、大変な状況になったり、トラブルに対応してはいけない場面でも、目標に向かって頑張れるような忍耐力が必要です。

3つ目は、エンタメを好きでいることです。コンサートに限らず、どんな形 (業界) でも構いません。ミュージカルでも、ゲームでも、映画でも、イベントでも、「エンタメ」と呼ばれるものであれば何でも良いので、「好き」という気持ちを忘れないでください。その気持ちがあれば、どんなことでも頑張れますし、自ずと仕事も続けられて、スキルアップにつながると思います。



▲実習を通じて、音響担当としてのスキルを磨きます